

豊田市 郷土資料館だより

No.92

目次

企画展「この夏キミは考古学者になる」	2
もう一人の殿様茶人 ～御深井焼水指からわかること～	3
民具調査だより18 量り売りと貧乏徳利	4
夏のおでかけ おすすめ文化財スポット！	5
平成26年度事業報告	6・7
新収蔵資料紹介1	8



城跡公園
足助城



鳥形木製品（本川遺跡出土）



貧乏徳利（2升）



装飾須恵器（豊田大塚古墳出土）



手鈴の銅鐸



御深井焼水指

菅根遺跡公園



この夏キミは考古学者になる

豊田市では、平成18年度から34年度までの17か年に、全25巻を発刊する計画で、新しい市域の歴史や伝統文化などを集約する市史編さん事業に取り組んでいます。平成27年3月には『新修豊田市史 資料編 考古Ⅱ 弥生・古墳』を刊行しました。

今回の企画展では、『考古Ⅱ』の刊行を記念して、選りすぐりの市内出土の弥生・古墳時代の考古資料を展示します。

市内には、462か所の弥生・古墳時代の遺跡があります。『考古Ⅱ』の中では、そのうち主要な集落と古墳の142遺跡について解説していますが、展示では、それらのうちから両時代を特徴づけるような考古資料を選び出し紹介していきます。

縄文時代の狩猟採集生活から、次の弥生時代になると、渡来系文物や技術の影響を受け、特に水田稲作農耕技術の伝来により、生活に様々な変化がもたらされます。市域の遺跡でも、縄文時代にはなかった新しい道具や技術の跡がうかがえます。本展では、稲作農耕技術による生活への変化がどのようにおこっていったのか、弥生時代の中でどのような新しい道具が出現してきたのかなどについて、市域で確認された遺跡の状況や、土器・農耕具などを中心に展示します。



石包丁（川原遺跡）



条痕文系土器（霊岩寺 A 遺跡）



農耕具（川原遺跡）

弥生時代の終わり頃には、南山畑遺跡で鍛冶遺構や鉄鏃が見つかり、続く古墳時代には、鉄製の刃先をとりつけたであろう農具も確認され、従来の木・土・石・骨製の道具にあらたに鉄製の道具が加わります。また、弥生時代の終わり頃から、集落の内外に大きな墓を造営するようになり、さらに巨大な墳墓を築く古墳時代が幕を開けます。

鉄製の道具による土木技術の進歩とともに、集団をたばねるリーダー的な存在の人々の出現がうかがえます。市域における古墳の出現時期は定かではありませんが、畿内王権との強い関わりをうかがわせる「三角縁神獣鏡」が副葬された百々古墳や、「内行花文鏡」が出土した宇津木古墳が4世紀代と考えられ、4世紀から8世紀頃にかけて250基以上の古墳が確認されています。展示室では、市史編さん事業によって明らかとなってきた市域出土の銅鏡5面、体系的にまとめられた横穴式石室の系譜、古墳から出土した副葬品などを紹介していきます。



内行花文鏡（宇津木古墳）

本展では、市史編さん事業による成果をもとに、豊田市の弥生・古墳時代の出土品の魅力を詰め込みました。遠い昔の豊田市域はどのような状況だったのか、発掘調査によって得られた情報や考古資料から、地域像の復元に焦点をあてています。夏休み期間の開催ということもあり、多くの児童・生徒・学生に訪れていただくことをめざし、小学生にもわかりやすい解説内容につとめました。

さあ、豊田市の弥生・古墳時代の人々のくらしについて、一緒に謎を解き明かそう！

この夏、郷土資料館で、「考古学者」になってみませんか？
（大平知香）

企画展「この夏キミは考古学者になる」

会期：7月4日（土）～8月30日（日）

開館時間：9時～17時

※月曜休館（ただし、7/20は開館）※入場無料

もう一人の殿様茶人 御深井焼水指からわかること

現在の豊田市寺部地区は江戸時代、尾張藩の家老を勤めた渡邊家の領地でした。寺部渡邊家の10代当主・渡邊規綱（1792-1871）は、又日庵と称し茶人として有名で、茶道具にも造詣が深く作陶も行っています。又日庵・規綱は奥殿藩松平家の出身で、父の代から裏千家と縁が深く、弟が裏千家に養子に入り11代家元・玄々斎宗室となっています。

これまで又日庵についてはさまざまところで茶人として紹介されてきましたが、又日庵・規綱の長男・寺部渡邊家11代渡邊寧綱（1810-1860）も茶人として活躍していたことが、近年みつけた資料から新たにわかってきました。

平成26年11月、一つの茶道具が寄贈されました。寺部渡邊家の家臣・松本家から発見されたもので、その書付や箱書きからその由来がわかります。

「齋朝公拝領 御深井焼水指 玄中斎（花押）
道高二 おくる」



齋朝公は、寛政10年（1798）尾張藩主徳川宗睦の養子となり、寛政12年～文政10年（1827）まで尾張藩10代藩主をつとめた人物です。水指の箱に同封されていた嘉永2年（1849）松本家9代又右衛門道高（-1867）の書付によると、玄中斎公は「寧綱公御雅銘」とのこと。これまで知られていませんでしたが、玄中斎は渡邊寧綱であることがわかります。

御深井焼は名古屋城内深井丸にあった尾張徳川家の御用窯で焼かれた陶器をいいます。特定の釉薬や形式の焼き物をいう訳ではなく、尾張徳川家伝世の名品を写した作陶や藩主が直接制作にかかわった焼物の総称です。

この水指は、名古屋城内で焼かれ徳川齋朝公から渡

邊寧綱公が拝領したものを、後に、家臣の松本道高に下賜されたものです。

玄中斎という名前から、寧綱は叔父である玄々斎から茶道の手ほどきを受けたと考えられます。寧綱の末弟・正綱（1847?-1918）は、一時期裏千家に入って徹玄斎と称していたこともわかっています。寧綱は実際に茶人としてどのような活動をしていたのか詳細はわかりませんが、父子共に茶道を行っていたと考えられます。

さて、寧綱の茶人としての活動がわかる資料がもう一つあります。それは、足助町本町に建つ国指定文化財旧鈴木家住宅にある茶室の扁額です。茶室の名前を記したもので、「富久菴」「玄中斎 寧綱」と彫られています。



茶室は三畳ほどの大きさで、点前座が一般的な畳の大きさより小さい台目畳一枚、客座が台目畳二枚の茶室です。足助の豪商であった鈴木家は、茶道にも造詣が深く玄々斎からの手紙が伝わっていたり、茶道関係の資料も多く残されている家です。寺部渡邊家との関係を示す古文書もあり、鈴木家が新しく茶室を建築した

たのにあわせて、お祝いとして寧綱が扁額を贈ったのでしょうか。現在、茶室の建築年代は不明ですが、この扁額が茶室の新築にあたって作られたとすると、寧綱の没年である万延元年（1860）以前の可能性が出てきます。あるいは寧綱が茶室の設計にかかわるようなこともあったかもしれません。寧綱の茶人としての活躍の姿は、今後すめられる旧鈴木家古文書調査から出てくる可能性があります。（伊藤智子）

量り売りと貧乏徳利

民具調査だより 18

びんぼうどつくり

豊田市郷土資料館および、各地域資料館で、「貧乏徳利」という資料名称で登録されている収蔵品は、大小とりまぜると140点程になります。その多くは、多治見市の北東、高田川流域の『高田・小名田』^{たかた おな}地区で江戸期から明治・大正にかけて製造された「源蔵徳利」^{げんぞう}（別名を貧乏徳利）です。貧乏徳利は、酒の醸造元や小売業の酒屋が客に貸し出したり、販売した容器で、ガラス瓶が普及する大正末期頃まで使われたと言われています。またその役目から「貸し徳利」「通い徳利」とも称されました。

徳利には、酒の名、酒屋名、地名、通し番号や電話番号などが記されています。

さを今一度考え直さなければいけない時だかもしれません。「ゼロ・ウェイト宣言」で有名な徳島県上勝町の「上勝百貨店」は売り場で詰め替えを行う量り売りの店として人気が高まっているそうですし、蓬莱泉で有名な北設楽郡設楽町田口の関谷醸造では、お酒の量り売りに力を入れておられます。

貧乏徳利って？

「通い徳利」「貸し徳利」「源蔵徳利」「貧乏徳利」などと、多様な呼び名を持つこの容器ですが実際には、ただ単に「トックリ」「サカビン」などと呼ばれていたようです。小口で貧乏人に売ったから「貧乏徳利」という説は正しくないように思いますし、その形が貧相であったからとか、下層民が主に使用したからなどの説がありますが、江戸時代に記された守貞漫稿^{もりさだまんこう}には「江戸五合或は一升到樽と此陶と並び用ふ大小あり號て貧乏徳利と云其謂を知らず」とあります…。

（東海民具学会 岡本大三郎）



胴に書かれた筆文字：拳母町 未千貳百七号 可支店
鉄釉やマンガン釉で書かれる。文字を書くのは発注者の商人側の役割で、その番頭や専門の文字書き職人が窯屋に出向き文字を書いたという。

リターナブルと量り売り

貧乏徳利は繰り返し使え、返却や回収もできるという優れた容器で、ガラス瓶が登場する以前から使われてきたリターナブルの先駆的なものと言えるでしょう。容器を持参し、必要な量だけ買い求めることが出来る仕組みでしたので、たとえば一升徳利をぶら下げて酒屋に行き、三合だけ量って買って帰ることも出来た訳です。また酒や醤油、油などの液体だけではなく味噌^{きょうじ}なども量り売りで、経木で包み新聞紙で包んで販売しました。現在は、買い物にマイバック持参で行きますが、バックの中はというと分別して捨てなければならぬ容器に収められたものばかりです。量り売りの良



■並型貧乏徳利（一升） 平均的な寸法 Wφ135 H260



■貧乏徳利（一升）
Wφ141 H254
文字が有田・波佐見をまねて、コバルトで書かれています。



■瀬戸樽（五升）樽型徳利・カメ
Wφ265 H420 D263



夏のおでかけ おすすめ文化財スポット！



復元された竪穴住居

おすすめコース① 中心市街地

「豊田市の古代を旅する」

郷土資料館で原始について学ぶ

→曾根遺跡公園で竪穴住居跡や八柱社古墳を見学

郷土資料館

企画展「この夏キミは考古学者になる」7/4～8/30開催

夏休みこども月間

～きみも考古学者になって弥生・古墳時代にタイムスリップだ～

7/18～8/30開催



八柱社古墳（市指定史跡）は市内の古墳の
中では最大の規模を誇る造出付円墳です。

●曾根遺跡公園 ところ 森町3丁目71-1



八柱社古墳

おすすめコース② 足助地区

「戦国時代の山城と古い町並み散策」

足助城本丸を目指しプチ登山

→重要伝統的建造物群保存地区に選定された足助の町並み散策

足助城は発掘調査により復元された戦国時代の山城です。

江戸時代の建物も残る美しい町並みは今年5月「まち交大賞」を受賞しました。

●城跡公園足助城

ところ 足助町須沢39-2

公開時間 午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日 木曜日

入場料 大人300円 高校生100円 中学生以下無料



足助城の物見台



白壁が美しい町並み



足助城から望む街道

敵の侵入を見張っていた
のでしょうか

おすすめコース③ 松平地区

「徳川のルーツを探る」

松平郷館で徳川家の先祖松平家について学ぶ

→国指定史跡や美しい自然がある松平郷園地を散策

今年は徳川家康公没後400年にあたります。

松平郷館では夏休み合同スタンプラリー開催 7/18～8/30

●松平郷館

ところ 松平町赤原13

開館時間 午前10時～午後4時（夏季）

休館日 水曜日

入館料 無料



〈国指定史跡〉



松平城跡



松平氏館跡
（松平東照宮）



徳川家康公400年祭開催中



夏休みにぜひご家族お友達とおでかけください！

夏のおでかけには、“とよたiマップ「文化財・遺跡マップ」”をご活用下さい。

現地への、詳しい地図が検索できます。

とよたiマップ

検索

URL: <http://www2.wagamachi-guide.com/toyotacity/>



■平成26年度文化財保護事業報告

■文化財保護事業

1. 文化財保護審議会 3回

諮問9件 答申1件

伝統的郷土芸能団体の認定2件

文化財防火デー：長興寺・旧山内家住宅・

足助八幡宮

2. 伝統的建造物群保存地区保存審議会 1回

3. 埋蔵文化財調査の概要

○有無の照会

住宅建設・開発の事前調査などに伴って文化財課へ埋蔵文化財の有無が照会されます。近年の件数は、23年度749件、24年度710件、25年度1,300件でした。平成26年度は1,687件で、前年よりやや増加しています。この中で205件（前年比-42）が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に該当しました。

○届出

遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要です。平成26年度は民間開発事業73件（前年比-20）、公共事業29件（前年比-16）がありました。

表1 届出一覧

地区	民間	公共	主な遺跡
猿投	7	2	江古山遺跡
挙母	17	4	挙母城（桜城）跡
高橋	32	1	高橋遺跡・寺部遺跡
松平	0	0	
高岡	0	2	池浦古窯跡
上郷	4	1	上野下村城跡
藤岡	4	4	辻貝戸遺跡
小原	1	2	宮前遺跡
足助	0	4	中嶋遺跡
下山	2	3	代官屋敷B遺跡
旭	4	3	宇内戸遺跡
稲武	2	3	中村遺跡
計	73	29	

文化財保護法による届出のあった案件の中で確認調査・試掘調査等を25件実施しました。表2は調査を実施した遺跡の概要です。また、本調査は、住宅建設や区画整理事業に伴って3件実施しました（表3）。



東広瀬経塚（東広瀬町）

表2 確認調査・試掘調査を実施した遺跡（一部）

遺跡名（所在地）	調査原因等	調査面積（㎡）
豊田大塚古墳（河合町）	保存整備	50
龍性院庭園（猿投町）	保存整備	210
寺部遺跡（寺部町）	住宅建設	23
稲荷下遺跡隣接地（花園町）	道路建設	50
稲荷下遺跡（花園町）	区画整理	58
四郷地区（四郷町）	区画整理	60
伊保遺跡（保見町）	駐車場整備	73
水汲遺跡（下川口町）	住宅建設	4
飯盛城跡（足助町）	測量	480

表3 本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名（所在地）	調査原因	調査面積（㎡）	主な遺構
高橋遺跡（上野町）	住宅建設	76	ピット
東広瀬経塚（東広瀬町）	住宅建設	15	一字一石経
寺部遺跡 14A・B区（上野町）	区画整理	208	土坑・溝

○発掘調査報告書刊行

豊田市埋蔵文化財調査報告書第62集『亀首遺跡工事立会埋蔵文化財調査報告書』第63集『東広瀬経塚』第64集『柝原遺跡Ⅱ』第65集『寺部遺跡Ⅴ』第66集『高橋遺跡』を刊行したほか、『平成25年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』を作成しました。

4 文化財等保存維持・修理補助事業

- ・有形民俗文化財保存維持16団体（神明町山車囃子保存会ほか）
- ・無形民俗文化財保存維持29団体（小原歌舞伎保存会ほか）
- ・有形民俗文化財保存修理5件（足助西町山車ほか）
- ・有形文化財保存修理2件〔木造観世音菩薩坐像（昌全寺）ほか〕
- ・天然記念物保存整備2件〔折平のコウヨウサン（折平町）ほか〕
- ・伝統的郷土芸能保存維持19団体（藤沢水神囃子保存会ほか）
- ・伝統的郷土芸能保存修理2団体（挙母神楽保存会ほか）
- ・郷土の先人顕彰事業活動5団体（松平親氏公顕彰会ほか）
- ・重要伝統的建造物群（足助）修理5件・修景2件

5 史跡・名勝・建造物等整備・修理

- ・旧松本家長屋門修理工事（平成27年度継続）
- ・史跡等看板更新（杉本の貞観スギはじめ34件）
- ・重要文化財旧鈴木家住宅修理工事（平成27年度継続）
- ・莨屋岡本家住宅（塩座・土蔵・離れ座敷）保存修理工事報告書刊行

6 民俗芸能普及推進

- ・豊田市民俗芸能大会 10月26日（日）下山支所駐車場にて実施 出演団体6団体 観覧者数500人
- ・民俗芸能映像記録（旭八幡町八幡神社の大祭）
- ・とよたの祭事記録（藤沢・押沢・松嶺地区の棒の手）

7 その他

- ・ニホンカモシカ滅失個体処理29件

■平成26年度郷土資料館事業報告

■郷土資料館事業

1 展示・入館者数

平成26年度入館者数 16,023人

- ・特別展「自動車を楽しむ豊田英二 ―ものづくりのまち豊田市への歩み―」 9/27～11/30 4,587人
- ・企画展「山に生きた縄文人 ―『新修豊田市史』の成果から―」



7/5～8/31 2,805人

- ・企画展「ハカル ～古い道具と昔の暮らし～」 1/31～4/12 3,511人
- ・企画展「ひいなのお春 ～資料館のひなまつり～」 2/7～3/15 2,189人
- ・企画展「ひいなのお春 ～喜楽亭のひなまつり～」 2/7～3/8 1,159人

2 資料調査

- ・旧鈴木家住宅民具調査報告書刊行

3 資料収集・複製・修復

- ・「若子家所蔵歴史資料」「祐専寺関係文書」「錦絵『勇兵原田氏 玄武門を開く』」ほか購入
- ・「内藤家長掛軸」修復

4 資料貸出件数

- ・他館・機関への資料貸出（写真含む）142件

5 第1回とよた歴史検定

12月1日（日）崇化館交流館にて実施

初級 受検者60人 合格者25人

平均点70.2点 合格率41.6%

上級 受検者16人 合格者6人

平均点72.9点 合格率37.5%

6 講座ほか

「よろいを着てみよう」「まが玉作り」「拓本講座」「史跡めぐり」「工場見学ツアー」「ギャラリートーク」など9講座463人

7 郷土学習スクールサポート

― のべ167校の小中学校と連携、のべ13,311人の児童生徒の学習をサポート ―

平成26年度も市内の小中学校からの依頼を受け、「資料館・遺跡見学」、「出前授業」、「資料貸し出し」の3つの学習サポートを展開してきました。また、地域〈鎌倉大鎧に興味をもつ生徒〉学習サポーターによる学習支援も、のべ40校、のべ106人の学習サポーターが子どもたちの学習を適切に支援しました。郷土学習スクールサポート事業では、学習の効果や児童生徒の意欲を高めるために、実物に触れるということを重点におき学習を展開しています。



8 近代の産業とくらし発見館事業（郷土資料館分館）

平成26年度入館者数 14,964人

- ・企画展「発見館まゆまつり 2014」 4/24～7/13 2,970人
- ・企画展「車のまちとよた～豊田英二の生きた100年」 9/13～11/30 3,324人
- ・企画展「明治・大正・昭和・平成 まちなかの変遷」 2/10～4/5 3,017人
- ・ものづくり講座 「干支まゆ人形・未」「鑄造キーホルダー」ほか
- ・見学会 「養蚕農家を訪ねて」「金山揚水」ほか
- ・ぶらコロモ（史跡めぐり）「名木めぐり編」ほか
- ・その他 「ふれ愛フェスタ2014」「とよたものづくりフェスタ2014」などに参加



9 その他

- ・稲武文化財倉庫改修工事
- ・松平郷館階段修繕
- ・豊田市棒の手会館展示室映像および機器更新

新収蔵資料紹介-1 天神人形

巴町にお住まいの方から、立派な眉毛と髭を蓄えた人形を寄贈いただきました。昭和10年代はじめ、寄贈者ご本人かお兄様の出生時に贈られ、毎年3月に飾っていたそうです。高さは14cm、刀を差し、笏を持ち、綺麗な刺繍が施された着物を着ています。

男児に三月節句の人形を贈る？少し調べてみると、天神人形を男児に贈る風習があることがわかり

ました。寄贈者は豊川市のお生まれだそうで、『新編豊川市史 第九編 民俗』を見ると、三月節句に男児に武者のひな人形が贈られたとあります。明治から大正にかけては土雛の天神様、昭和からは布製の天神様になり、大きな御殿に入った天神様も登場したそうです。

三月節句に男児の成長を願い、人形を贈る風習は静岡県^{しだはいばら}の志太榛原地域など他の地域でも見られます。天神様のモデルは平安時代の学者・菅原道真で、学問の神様として崇められています。賢い子に育つように願いが込められたのでしょう。ちなみに足助では、男児に雛人形を、女兒に武者人形を贈る風習があったそうです。



豊田市の歴史・文化財について学び、伝えていく活動をしていただく「とよた歴史マイスター」を募集しています。第1期(5月29日締切)には、56名の方にご応募いただきました。

史跡の案内、体験講座の手伝い、郷土資料の整理など、ご自身の関心や特技を生かして活動していただけます。

- 申込方法 専用申込書をご提出ください。
※詳細は郷土資料館・交流館などで配布の募集要項・郷土資料館HPをご覧ください。
- 第2期募集締切
平成27年10月31日(土)
※マイスターは継続して募集します。締切後の応募は第3期の受付となります。
- 講座受講日 平成27年11月(日にち未定)
※マイスターの認定は、講座を受けてからとなります。

歴史好き大募集!第2回「とよた歴史検定」

第2回「とよた歴史検定」を下記のように実施します。日頃から郷土の歴史に興味をもっている方はもちろん、この機会に学習してみたいという方や郷土の文化財などを知りたいという方など、多くの方の挑戦をお待ちしています。

○検定日 平成27年11月1日(日)
午前10時30分～11時30分

○会場 豊田市青少年センター
(豊田市小坂本町1-25 産業文化センター内)

○受験料 初級500円 上級1,000円
(中学生無料、リピーター割引あり)

○公式テキスト 新修豊田市史概要版『豊田市のあゆみ』
※現時点での予定です。応募状況などにより、変更することがあります。

※検定の詳細、申込みは8月上旬ごろ郷土資料館・交流館などで配布予定の募集チラシをご覧ください。

豊田市郷土資料館のホームページに第1回「とよた歴史検定」の問題と解答を初級・上級ともに掲載しています。学習の参考にしてください。

■利用案内■

開館時間 9:00～17:00
休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)
入館料 無料(特別展開催中は有料)
交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩15分
とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩5分
駐車場 約20台

●豊田市郷土資料館だより No.92

平成27年7月3日発行
編集・発行 豊田市郷土資料館
〒471-0079 豊田市陣中町1-21
TEL.0565-32-6561 FAX.0565-34-0095
E-mail ● rekihaku@city.toyota.aichi.jp
URL ● http://www.toyota-rekihaku.com
※豊田市郷土資料館だよりは、HPでもご覧いただけます。